

【スケジュール】

4月～5月末 具体的なアプリケーションの提案.

6月～6月末 実装した研究論文（手間がかかっているものや特別な環境下のもの）
を読んでいく.

7月～ 実装のためプログラミングを行う.

【具体的なアプリケーション案】

① 水中と陸地を接続する無線マルチホップネットワーク

養殖で得たセンサ値を陸地へマルチホップで送信.

養殖は広範囲で、陸地から遠い場所で行っているため通信距離が必須.

② 上空と地上を接続する無線マルチホップネットワーク

道路沿いにある建物や電柱に Router を取り付けることで、上空あるいは地上へ
データを送信することが可能になる.

空飛ぶ車は、0.1s の遅延も許されないので、不適.

飛行機も 5G/6G ぐらいの大容量通信が必要.

③ 家具（ソファ等）に Router を取り付けて、そこを経由して家の中の物を外から操作する.
家の中と外を繋げることが可能になる点がポイントである.

例) ソファや椅子が窓際にあって、エアコンが家の中のどこかにあるとする.

帰宅する前に、家の付近（駐車場など）で、エアコンの電源を入れる指示を与える.
その指示は窓際にある家具の Router を経由して、エアコンまで届けることができる.
これにより、帰宅した時には、家の中を夏だと涼しく冬だと暖かくすることが可能.
その逆もでき、家の中で車のエアコンの電源を入れる指示が可能になれば、夏場の暑くなった空気を感じなくて済む.

IoT 専用のアプリがある家電はあるが、4G/5G を使用しなくてはならない、家電製品
自体の価格も高くなる.